

廃校になる久保小校舎の活用検討 尾道市長表明

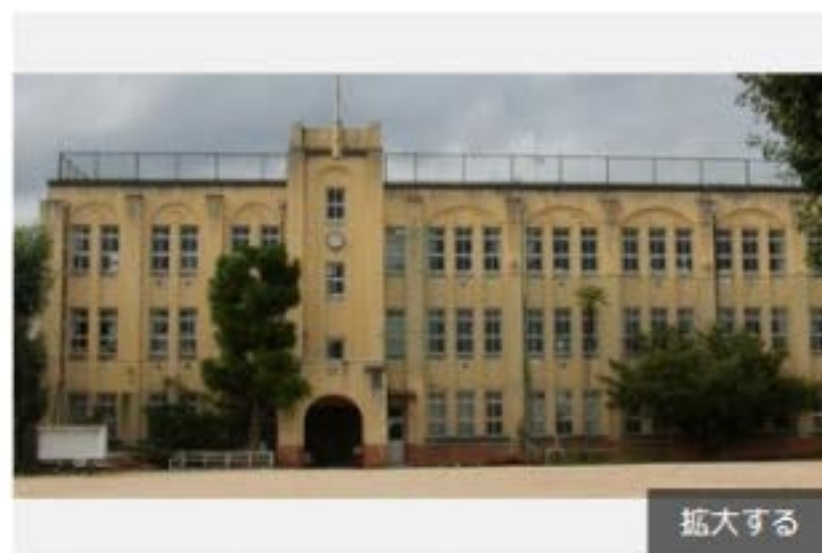
地域 広島 備後

2023/9/21 (最終更新: 2023/9/21)



広島県尾道市中心部の5小中学校の統合再編を進める議案が20日に市議会本会議で可決されたことを受け、平谷祐宏市長は21日、廃校となる久保小の校舎について、地元の要望に応じて耐震補強した上で活用を検討する考えを示した。

定例記者会見で「校舎そのものに価値があり、跡地を含めて地域のまちづくりに使いたいという要望がある。関係者と協議し、できるだけ早く示したい」と述べた。



市が廃校後の活用を検討する久保小の校舎

校舎は1933年完成の鉄筋コンクリート3階建て延べ2964平方メートル。市が歴史的風致形成建造物に指定している。校舎と敷地の一部が土砂災害警戒区域（イエローゾーン）にかかっているため、活用は制限される可能性がある。

同様に同建造物に指定されている土堂小の校舎は、学校存続を望む声が多く地元から要望を聞いていないため、跡地を含めた活用は未定とした。長江小の校舎は、土砂災害の危険性の高さや進入路の狭さなどから活用しない方針を示した。（森田晃司）

<関連記事>

尾道福屋で閉店セール始まる 2024年1月14日、25年の歴史に幕

不登校の子の保護者、尾道市教委に要望書 フリースクールなど多様な機会を

不法投棄しないで 尾道市が年末の防止キャンペーン、31日まで山中...